

去る去年12月17日、筑波大学・北東アジア総合研究所は民主党的近藤昭一衆議院議員を招き「中国と日中関係を語る」と題した講演会を開催した。近藤議員は演説による「日中友好議員連盟」の現勢報告を始め、政治家として見ると日本と中国の「現境」をつぶさに見てきた人物。近藤議員が体験してきた戦後の日本と中国の関係、その変遷と現在の日中関係を取り巻く情勢について語った。今回は近藤議員の講演を録音、転載する。

近藤昭一議員「中国と日中関係を語る」で講演

各国主要メディアが高い関心 友愛と東アジア共同体の行方



急ピッチで進む「改革」 信頼作りで人の交流拡大

東アジア共同体と「友愛」 信頼関係の構築に全力

近藤昭一議員は講演で、戦後日中関係の変遷と現在の日中関係を振り返り、東アジア共同体の構築に力を入れるべきだと訴えた。中国と日本は、戦後長い間、友好関係を築いてきた。しかし、冷戦時代には、中国は日本を「敵国」と見做し、日本は中国を「共産主義の脅威」と見做した。冷戦が終結すると、日中関係は急速に正常化し、現在は「戦後最大の繁栄期」を迎えている。近藤議員は、中国の改革開放政策が、日本にとって大きなチャンスであると指摘し、両国が互いに信頼を積み重ね、東アジア共同体を構築していくべきだと強調した。

第17回「東京国際ブックフェア」開催

「今年のテーマは『サウジアラビア』」

東京国際ブックフェアは、毎年10月に東京ビッグサイトで開催される。今年も10月10日から14日まで開催される。今年のテーマは「サウジアラビア」で、サウジアラビアの文化、歴史、経済に関する書籍が数多く展示される。また、サウジアラビアの作家による講演や、サウジアラビアの音楽演奏も行われる。このフェアは、日本とサウジアラビアの文化交流を促進する重要な機会となっている。

近藤昭一議員は講演で、東アジア共同体の構築には、各国間の信頼関係の構築が不可欠であると述べた。中国の改革開放政策は、日本にとって大きなチャンスである。日本は、中国の改革開放政策を積極的に受け入れ、両国間の貿易と投資を拡大していくべきだと訴えた。また、東アジア共同体の構築には、各国間の文化交流も重要であると指摘し、教育や文化芸術の分野での交流を促進していくべきだと強調した。